

## 古事記にみる海事思想

原 見 敬 二\*

日本神話は農耕の面を多くもっているが、上代の大陸航路などに関連する思想も見逃すことはできない。以下は、その例である。

黄泉(ヨミ:あの世)の国から竺紫(ツクシ:九州)の日向(ヒムカ)の海岸にこられた伊弉那岐命(イザナギノミコト)が海水でその穢れを祓われたとき、お生れになったのが底津綿津見神(ソコツワタツミノカミ)と底筒之男命(ソコツツノヲノミコト)。中(ナカ)津綿津見神と中筒之男命。上(ウハ)津綿津見神と上筒之男命である。

綿津見3神のワタは海、ツミは山のことで精霊または神の意味をもつとのことだが、ワタは渡る、朝鮮古語のPATA=海の転移説もある。底・中・上は海洋学術用語の底層・中層・表層に該当しているのは面白い。筒3神のツツはツチと同じで、ツは助詞、チは尊称だが、他にいろいろな説があり、主なものは次の2つと思われる。

1. 船の中央に立てる柱を筒といい、筒を立てる底部の穴を筒穴という。伊勢神宮の御神体の御鏡(日神)は御船代(ミフネシロ:船)に納めてあり、その床下に心の御柱がある。これが筒柱である。要するに、柱は天と海を結び、航海を守る船霊(日神)を筒穴に安置する関係から筒え男神の信仰が生れた。

2. 筒は星(ツツ)で、底・中・上の筒神はオリオン星座を代表する中央の3つ星で、航海の指標としたので、航海を掌る神と考えられる。

以上を補足すると、次の3項目になる。

1. 上代の人々は天(アマ)=海(アマ)で、その用例は古事記にも散見する。このため海中に星が住み、海から星が生れてくると考え、綿津見3神や筒3神は海底や海上になれる神とした。

2. 万葉集では、星をツツと訓む。例として夕星(ユフツツ)があり、宵の明星・明けの明星といわれる金星=ビーナスである。

3. 3つ星は、いずれも2等星で、天の赤道上にあって冬の南天を飾る。初冬の頃、真東から縦1列で水平線より昇り、南中の頃から斜に傾き、晩春のころ、真西の水平線に横1列で沈む。したがって、航路の目標ともなり、生活気候にも応用できるのである。

神功皇后の創建と伝えられる筒3神を祀る大阪市の住吉大社には同形同大の4棟の御殿があり、うち3殿は縦1列に並んでいる。東端が第1本宮で底筒え男神・中央が第2本宮で中筒え男神・西端の第3本宮は上筒え男神を祀る。これらは海浜に正対して、ほぼ西面して建られてあり、通常は南面する神社建築としては一種独特のものがある。

古代から筒3神を祀る住吉の社は、大阪市、神戸市、下関市、萩市、福岡市、壱岐島、対馬にみられるように、大陸航路の守護神であることを物語っている。

次に、火照命(ホデリノミコト:日本書紀では海幸彦)と火遠理命(ホヲリノミコト:同じく山幸彦)の海幸・山幸の神話に移る。

この神話は有名であり、百科辞典などにもあり、簡略化するが、海事に詳しい塩椎神(シホツチノカミ)が、山幸に海国の宮へ行けと造られた舟は無間勝間(マナシカツマ:目の細い竹籠に樹脂や粘土、ときには牛糞を塗り水が入らぬようにしている)である。海国の宮では綿津見神(海神)の娘、豊玉毘売(トヨタマヒメ:真珠の神格化)と結ばれ、3年後に海神から塩盈珠(シホミツタマ)と塩乾珠(シホヒルタマ)という潮汐操作のできる呪の珠を土産に貰っている。

この干満調節自在の珠は、神功皇后が新羅親征時に用い戦を勝利に導いたと、久留目市の高良(コウラ)大社や宇佐の八幡宮の縁起にはあるが、古事記や日本書紀にはない。その珠は、豊玉毘売を祀る鹿児島神宮の宝物となっていて茶褐色系の大石様のものとのことである。

海幸・山幸神話は、スラウエシ島北端のメナド(港の転訛)やミクロネシアのパラオ島にもある。その他、東

\* Keiji Harami, 神戸 長田神社。

南アジアの各地にも異境訪問、末子相続など同類の話が分布する。また、浦島太郎のおとぎ話の原像だといわれている。

なお、海宮への道を教えた塩椎神は、日本書紀の海宮遊幸神話では塩筒老翁（シホツツノオジ）となっている。

古代人は日神を拝み、天=海、海から昇る星は、星=筒、オリオン座の3つ星=筒3神。塩椎神=塩筒老翁=海神=大綿津見神（伊邪那岐伊邪那美2神の神生みによる）→綿津見3神と考え、航海神と仰いだのである。

## 環境科学シンポジウムのお知らせ

主催：環境科学シンポジウム実行委員会

日時：昭和62年11月25日（水）～27日（金）

会場：東京虎ノ門パストラル

〒105 東京都港区虎ノ門 4-1-1

TEL 03 (432) 7261<大代表>

[交通] 地下鉄銀座線虎ノ門駅下車徒歩8分

地下鉄日比谷線神谷町駅下車徒歩2分

一般講演時間：発表15分（予定）

一般講演申込締切：9月30日（水）必着

講演申込方法：

B5版400字詰原稿用紙1枚にヨコ書きで(1)講演題目、(2)研究者名および所属機関（略名カッコを付す）（講演者に○印）、(3)発表希望分野のコード番号（下記の分類を参照）(4)連絡先、郵便番号、住所、所属機関、部局、電話番号を明記の上、実行委員会までお申し込み下さい。

講演の採否、順序、講演時間の調整等は実行委員会にご一任下さい。

講演分類：（2ケタの数字を記入；1つまたは2つを選択）

環境動態 10 全般 11 気圏 12 陸域 13 海域 14 水域地下水 15 物質循環 16 富栄養化 17 赤潮 18 都市域 19 その他  
 人体影響 20 全般 21 変異原性 22 遺伝 23 毒性・重金属 24 呼吸器障害 25 地域生態 26 物理環境 27 社会評価 28 その他  
 改善技術 30 全般 31 水処理・水圏 32 脱窒・

脱リン 33 固体廃棄物 34 ガス・気圏 35 分解技術 36 その他

環境理念 40 全般 41 理念 42 データベース 43 計画 44 環境経済 45 住民意識 46 規制 47 その他

環境計測 50 全般 51 レーザー・レーダー 52 計測 53 自動化 54 計測法の開発 55 その他  
 人為起源物質 60 全般 61 循環、制御 62 有機金属・重金属 63 水の浄化 64 難分解性 65 評価と管理 66 その他

環境計画 70 全般 71 都市圏 72 交通 73 高密度生活空間 74 その他

環境教育 80  
 その他 90

講演要旨原稿：講演申込者には直ちに所定の原稿用紙をお送り致します。

講演要旨締切：10月24日（土）必着

参加費：3,000円（講演要旨集代を含む）。事前の参加申込みは不要

懇親会：11月26日（水）18時より同パストラル宴会場

申込および連絡先：〒305 茨城県新治郡桜村

筑波大学大学院環境科学研究科内  
 環境科学シンポジウム実行委員会  
 実行委員長 山中 啓  
 (TEL 0298-53-4752, 6598)

いずれも直通